



有森 匠
Arimori Takumi

大学院への進学をきっかけに真庭へ

真庭のバイオマス発電をはじめとする脱炭素の取り組みを研究する、有森匠さん。有森さんは、所属する大学の研究室の先生が、昨年度横浜国立大学から岡山大学に移ったことをきっかけに神奈川県から真庭市に移住したそうです。

「エネルギーについて勉強したくて、真庭もバイオマス発電が有名と知って見に来ると、この研究をしたいと思うようになり、岡山大学大学院に進学しました」と話します。そして「研究する場所に住んだ方が楽しいだろうなと思って真庭に移住しました」と教えてくれました。

真

MANIWA BITO

庭人

脱炭素社会に向けた市民会議に参加して

有森さんの所属する鳴海研究室と市が協力して昨年度実施した『脱炭素社会に向けた市民会議』。有森さんは当初、議論を促したり意見を出しやすい雰囲気作りをしたりするのが自分たち学生の役割かなと思っていたそう。しかし実際に始まると、「皆さん、脱炭素に関してすごく知識があって、普段から考えているんだなと感じる意見が多く出てきて。話し合いでは時間が足りないくらい盛り上がり、それが真庭のすごさだなと思いました」と話します。

実現したい『野望』

「真庭に電力会社とバイオマス発電所を建てたいで

脱炭素社会に向けた市民会議でのプレゼン



趣味は筋トレ

有森 匠さん(落合垂水)

1999年生まれ。神奈川県出身。岡山大学大学院への進学を機に真庭に移住。真庭で脱炭素の取り組みの研究をする傍ら、おチアーズとしてまちづくり活動にも取り組む。趣味は筋トレ。

す。そして発電事業を基盤に、地域の困りごとをビジネスで解決できるような、地域創生をする会社を作りたいと思っています」と将来のビジョンを話す有森さん。「大学卒業後すぐは難しいから、一歩目として再生可能エネルギーの会社に入って、経験を積んでから真庭に戻って野望を実現したい」と思っています。あのときの大学生が、戻って来たら地域でいろいろやってくれるじゃないと思われたいです」と話します。有森さんは『野望』実現に向け挑戦中です。

